



Arseny Tarasevich-Nikolaev

アルセーニ・タラセヴィチ=ニコラーエフ (ピアノ)

彼のような若さで、これほどまで思慮深く音楽性と深みある叙情性をそなえた音楽家を他に知らない。
— DECCA Classics

アルセーニの演奏を耳にした瞬間、眼前に過去から現代へとつづくピアノ演奏の全歴史が広がっていった。
— ジェラート ウィレムス/ピアニスト

彼の演奏は過去の偉大な巨匠達の姿を想起させる。
— ベルゲン新聞

2015年ショパン国際コンクール。当時22歳のこの若きピアニストは、淡々とした表情で決して急ぐことなくたっぷりと時間を使い、一つの音一つの和音に耳を傾けながら音楽を大切に構築していく。身体の動きを抑制した演奏スタイルが印象的で、既に確たる自身の音楽をもったアーティストとしての風格を纏っていた。

翌2016年のシドニー国際ピアノコンクールで2位に入賞しユニバーサル・ミュージック・オーストラリアのディレクターの目にとまる。5年のレコーディング契約を交わし、その後、老舗レーベルDECCA Classicsと契約し二つの名門レーベルと協力契約を結んだ初めてのアーティストとなった。2018年には、DECCA Classicsから1stアルバム「Moments Musicaux 一楽興の時」のリリースが予定されている。収録内容は、オール・ロシア・プログラムで、タイトルにある通りラフマニノフの楽興の時をメインに、プロコフィエフの「束の間の幻影」、スクリャーピンの「ソナタ」などに加え、彼自身の祖母にあたる、タチアナ・ニコラーエフ作曲の「演奏会用練習曲」も収められる予定だ。

ニコラーエフといえば、20世紀を代表する女流ピアニストとして知られ、1993年に演奏中に舞台上で倒れそのまま亡くなったという。ニコラーエフが生まれたのは奇しくもこの祖母が亡くなったのと同じ年のことだった。月日は流れ、ニコラーエフは2011年にモスクワ音楽院に入学する。セルゲイ・ドレンスキー教授、祖母の愛弟子であったピアニスト、ニコライ・ルガンスキー氏にも師事している。

ニコラーエフが提案した、今回のプログラム・テーマ《Nostalgie》は、祖母や彼女と同時代に生きた20世紀の偉大なピアニスト達へのオマージュとも考えられるだろうし、表現されたその瞬間から過去になり、その場に居合わせた者の記憶にとどまる演奏芸術の特質は、ノスタルジーとは切り離せないとも言えるだろう。演奏会でしか体感できない特別な何かは、過去と現在と未来との連なりを同時に直観的に感じさせてくれる。それが演奏会における《Nostalgie》なのかもしれない。ステージに照らしだされる独りのピアニストは、聴く者の未来の心に映るノスタルジーを呈示する。追憶はそこで生まれ、根付き、永遠に生きつづけるのではないだろうか。

くらしの中にクラシック


宗次ホール
Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
E-mail info@munetsuguhall.com
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター
営業時間:10:00~16:00
※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業
年中無休(年末年始、施設メンテナンス日を除く)

■交通アクセス
地下鉄栄駅 ⑫ 番出口より東へ徒歩4分



宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

宗次フレンズ 会員募集中!!

宗次ホールは
会員登録していただいた方に毎月無料で
新作チラシをご自宅にお届けします。

会員登録・年会費 無料

詳しくは、宗次ホール (052-265-1715) までお問合せ下さい。